

7 事実と意見

7.1 事実と意見

事実と意見を書きわけの必要について、1.2節で私の考えのポイントを述べた。この章はそれを承けたものである。

2.3節「主題の選定」でも引用したが、米国で小学校用に編集された *Patterns of Language* という8冊(A~H)の言語技術の教科書⁹⁾がある。10年ほど前、その中の1冊(E, 小学5年用)を手にした私は、たまたま開いたページに

ジョージ・ワシントンは米国の最も偉大な大統領であった。
ジョージ・ワシントンは米国の初代の大統領であった。

という二つの文がならび、その下に

どちらの文が事実の記述か？ もう一つの文に述べてあるのはどんな意見か？ 意見と事実はどうちがうか？

と尋ねてあるのを見て衝撃を受けた。

その後調べてみると、事実と意見との区別は米国の言語技術教育ではくりかえして登場するもののようなのである。*Patterns of Language* のD, 小学4年用の巻には次のか

木下是雄著

理科系の作文技術

中公新書



624



〈明快・簡潔に〉の
モットーに徹した、
創意あふれる指導書

理科系の作文技術 学習院大学名誉教授 木下是雄著

中公新書 624 定価 560円

たちで出ている。

事実か意見か

次に書いてあることをお読みなさい。

この背の高いアメリカ人は世界でいちばん機敏な男でした。
『ハワイの新しい学校』というのはあるお話の題です。

どちらが事実の記述ですか。事実とは何でしょう。事実と意見は
どちらがいますか。事実と意見の例をあげてごらんください。次に
書いてあるのはどれが事実でどれが意見ですか。

1. 私たちアメリカ人はほかの国の人より機敏です。
2. このお話によると、ジョゼフは小屋に住んでいました。
3. 私たちが読んだのはすばらしいお話でした。
4. この島の土着民は争いを好まぬおとなしい人たちでした。
5. 彼らの国のことばはおかしなことばです。

ある種の見解、たとえば上記の1と5とは問題を起こすことがあ
ります。なぜでしょう。……

そして、このページのわきには

事実とは、証拠をあげて裏付けすることのできるものである。

意見というのは、何事かについてある人が下す判断である。ほか
の人はその判断に同意するかもしれないし、同意しないかもしれ
ない。

という二つの注がならんでいるのである。

大学のイングリッシュ・コンポジション(1.3節参照)の
教科書として書かれたゴレルとリードの本⁶⁾になると(以

下は1972年版からの引用)。

スミスの犬は羊を殺す(羊を殺す犬だ)。

は判断であり、

私はスミスの犬が一匹の羊を殺すのを見た。

が事実の記述である；また

大学のフットボールは衰微しつつある。

は判断であって、

多くの大きな大学では、フットボール・チームの経費が入場料
収入を上まわる速さで増加しつつある。

は事実の記述といえる。

——という調子になる。この段階になると、事実と意見
(判断)の区別が明快でない例題も出てくる。たとえば

私たちは、殺人犯人スノードハートが出納係を射つのを目撃した。

はどうか。「目撃した」のは事実だろうが、「殺人犯人」と書
くのは判断である(英語では、故意の場合以外はmurderer—
殺人者—とはいわない)……。そしてこういう議論が、「レ
ポートの主体をなすべきものは事実であって意見ではな
い」というテーマにつながっていくのである。

米国の言語技術教科書からの引用が長くなったが、読者
諸氏はしばらくのあいだ、新聞を読み、雑誌を読むたびに、
「どこまでが事実か、どこからが意見か」を読みわけの努力
をしてみてください。この章で説こうとしているのは、文
章を書く際に

(i) 事実と意見をきちんと書きわけ(7.3, 7.4節参照)。